白銀小

主体的に学び、自分の考えを表現できる子の育成

～導入から課題設定までのはたらきかけと考えを伝え合う指導の工夫～

（３年計画の２年次）

校長　本宮　共子

１　研究主題について

⑴教育目標具現化の立場から

本校では「たくましく心豊かな子」を教育目標に、「明るく思いやりのある子、すすんで学ぶ子、健康にくらす子」を努力目標に掲げ、教育活動を展開している。その中で校内研究が特に担う役割は「すすんで学ぶ子」の育成である。学習をする上での基礎的な学習ルールを徹底させ、児童一人一人の学びの場である授業において、主体的に学ぶ態度を身に付けさせ、自分の考えをもち、考えを伝え合うことで、よりよい解決につながることが確かな学力を保証し、教育目標である「たくましく心豊かな子」の育成に寄与すると考える。

全ての児童が主体的に学び、自分の考えを表現することができるようにさせるためには、教師のはたらきかけと工夫が必要である。児童一人一人が「わかった！できた！身についた！」と実感でき、主体的に学習に参加することが、学校目標にせまっていくことができるものと考え、研究主題を設定した。

⑵児童の実態とこれまでの研究経過から

本校の実態として、授業への集中を欠きやすく、学習課題の見通しがもてない児童が多い。また、基礎・基本の習得や授業中の課題の解決にも不安な児童が多い。そこで昨年度は、見通しをもって主体的に学ぶために、「導入から課題設定までのはたらきかけの工夫」に重点を置き、教師の発問や課題提示などのはたらきかけから「思考のずれ」を生じさせ、児童に「おや」「どうしてだろう」という問いの意識をもたせることで、課題を自分事として捉え、自力解決しようとする姿が見られるようになってきた。また、１人１台端末や挙手、ネームプレートなどを使って児童全員が参加する場面を意図的に取り入れ、児童の考えを視覚化し立場の表明をすることで、問題解決へ取り組もうとする児童が見られるようになった。

しかし、伝え合う活動では、グループやペアで取り組んできたものの、児童同士の話合いは少なく、発言する児童に偏りが見られた。また、自分の考えを表現することへ苦手意識をもっている児童が多いことも分かった。

そこで今年度は、導入から課題設定までのはたらきかけの工夫を継続しつつ、さらに児童が意欲的に自分の考えを表現したり話し合ったりすることができるように、「児童が効果的に自分の考えを表現できるような手立てや方法の工夫」に重点を置くことにする。児童全員が主体的に授業に取り組み、学ぶことができるように実践していきたい。児童が主体的に自分の考えをもち、表現したり伝え合ったりすることで、学習への意欲が持続し、課題を自分事として捉え、学びを深めていくことができると考える。

２　研究のねらい

授業の導入から課題設定までにおける教師のはたらきかけの工夫と考えを伝え合う指導の工夫をすることで、主体的に学び、自分の考えを表現できる子が育成できることを、授業実践を通して明らかにする。

３　研究仮説

授業の導入から課題設定までにおける教師のはたらきかけと考えを伝え合う指導の工夫をすることにより、全児童の問いの意識を高め、見通しをもたせると共に、学習課題を自分事として捉えさせ、その考えを伝え合わせることで、主体的に学び、自分の考えを表現できる子どもが育成できるのではないか。

４　研究内容

⑴授業づくりにおける導入から課題設定の場面で、子どもたちが見通しをもって取り組めるように「思考のずれ」などの手立てや方法を工夫する。

⑵児童が効果的に自分の考えを伝え合うことができるような手立てや工夫をする。

（ア）様々な手立てや方法を取り入れることで、見通しをもたせた主体的な伝え合い活動を促す。

（イ）日常的に伝え合い活動を取り入れることで、主体的な伝え合い活動の基盤をつくる。

5　研究の経過

(1)研究仮説に基づく授業研究等

月	日	学年・授業者・題材名　等
5	31	公開授業（５学年）授業者　教諭　大庭　菜摘　　題材名　　算数「小数のかけ算」
7	14	教育指導課訪問（計画訪問）全学級授業
		第１回授業研究（要請訪問）・初任者研修実地研修「他校種研修」 ３年１組　授業者　教諭　川村　貴子　　題材名　算数「ぼうグラフを使って」 指導助言　総合教育センター副所長兼主任指導主事　松橋　祐哉　氏
9	6	第２回授業研究 ６年１組　授業者　教諭　淡路　衣津季　　題材名　算数「比とその利用」
10	31	公開授業（５学年）授業者　教諭　川畑　徹大　　題材名　理科「もののとけ方」
11	15	小・中ジョイントスクール授業公開（白銀小）
12	15	公開授業（２学年）授業者　教諭　古川　裕子　　題材名　国語「にたいみのことば」
12	19	公開授業（４学年）授業者　教諭　須藤　達也　　題材名　体育「キャッチバレーボール」
12	20	公開授業（１学年）授業者　教諭　小野　素子 題材名　国語「ききたいな、ともだちのはなし」

(2)一般研修

月	日	研修の内容
4	27	個別の指導計画の作成について、校内における配慮を要する児童の共通理解　教諭　荒谷　正博 生徒指導提要についての研修　教諭　淡路　衣津季 保健室の利用等についての研修　教諭　久保澤　麻衣子
5	24	小・中ジョイントスクール全体会
7	21	救命救急・ＡＥＤ講習会
8	22	いじめに関する研修
8	30	県学力学習状況調査　学力分析の研修
11	2	心のケア研修支援事業　講師　八戸学院大学短期大学部　教授　野口　和也氏
1	10	特別支援についての研修 講師　さくら学級　教諭　荒谷　正博・野里　安紀・野月　陽子・藤井　肇子
2	21	研修等報告会　発表者　淡路　衣津季、大庭　菜摘

6　研究の成果

(1)導入から課題設定の場面では、本校の児童の実態に合った「思考のずれ」を生じさせ、「立場の表明」を視覚化することで、問いの意識をもたせることができた。課題を自分事として捉え、自力解決しようとする姿が見られた。

(2)自分に自信がなく、自分たちの言葉で説明したり、話合うことに抵抗があったりする児童がいるため、今年度は研究内容（２）に重点を置いて取り組んだ。「伝え合い」の土台作りについて共通理解を図り、授業や日々の活動の中に取り入れることで、「伝えることが楽しい」「教えてもらって分かった」という思いを高めるようにした。ペアやグループ活動、１人１台端末を活用した取組など、児童が自分の思いや考えを伝え合う時間を増やし、工夫することで、少しずつ自分たちの考えを伝えられるようになってきた。

7　研究の課題

まだ、課題を自分事として捉えることができず、授業へ主体的に取り組めない児童もいる。そのような児童も授業の居場所ができるように、本校の児童にあった「思考のずれ」の教材研究を今後もしていく必要がある。また、次年度は研究３年目として更に「伝え合い活動」に重点を置き、一人一人が意欲的に自分の考えをもち、説明したり話し合ったりできる効果的な伝え合い活動の工夫を取り入れていく。教師の働きかけにより、児童の思考が深まるような問題解決学習に取り組んでいきたい。

（記入者　大庭　菜摘）